

2/12

36年の歴史に幕 有線放送劇 最後の収録

昭和33年に当時の志和農協から始まり、60年の歴史を持つ岩手中央農業協同組合(久慈宗悦代表理事組合長)の有線放送事業が、2月28日をもって終了しました。

これに伴い、昭和57年4月から有線放送を通じて町の民話や伝承、防犯情報などを伝えてきた紫波町有線放送劇団(藤尾東泉代表)は、ナックスホールで466回目となる最終回の収録を行いました。達増拓也県知事や熊谷町長、高橋昌造矢巾町長など14人が出演。これまでの出演者や関係者など約80人が見守る中、故・藤井逸郎さんが原作を書き、同劇団の事務局長を務める熊谷義昭さんが脚本を書き直した『続・思い出の白浪五人男』を収録しました。有線放送劇立ち上げ時から関わってきた熊谷さんは「さまざまな業種の人たちと知り合うことができ、いろいろな側面を知ることができました。出演者には『よそにはない、紫波町独特の活動』だと認識してもらっていたと思います。1回1回の収録がとても良い思い出です」とこれまでの歴史に思いを馳せていました。有線放送劇に172回の最多出演を果たした赤石地区の鎌田まき子さんは「有線放送劇の中ではさまざまな役を演じることができ、良い経験になりました。いろいろな人と会えること、そして演じることが楽しかったです」と振り返りました。



熱のこもった演技で有線放送への感謝を伝えたキャストたち

2/16 100歳おめでとう 白澤 ヤチヨさん



白澤さん(左)に対し、熊谷町長は「これからも元気で
お過ごしください」とお祝いの言葉を贈りました

入居する施設の利用者や職員、家族が集まり、町内のホテルで開催されたお誕生会で盛大にお祝いを受けた白澤さん。楽天的でよくよしない性格で、長寿の秘訣は「明るく過ごすこと。時々わがままを言うこと」といいます。「甘い食べ物とお花が好き。今の仕事は『ばやーン』とすること。これからもっと仕事を頑張ります」と冗談交じりで話し、皆さんの笑いを誘っていました。また「毎日元気で暮らせることがうれしいです。皆さんのおかげで長生きできました」と感謝の気持ちを伝えました。

町内の100歳以上のご長寿は白澤さんを含めて18人です。(2月28日時点)

2/6 交通安全の取り組みで 栄誉 水分小



紫波交通安全協会の深澤剛会長から代表児童が
表彰状を受け取りました

水分小学校(小原眞一校長)は、毎年5月に行う交通安全パレードやドライバーへの啓発活動などの取り組みが評価され、全日本交通安全協会から交通安全優良学校として表彰を受けました。同校で伝達式が行われた後、スクールガード感謝の会を開催。地域の子どもたちを見守るスクールガードの皆さんに対し、児童たちが感謝の気持ちを綴ったメッセージカードを贈呈しました。児童会長の関口隼さん(6年)は「雨の日も雪の日も私たちのことを見守ってくれてありがとうございます」と日頃の感謝を伝えました。

2 / 13

協力して地域を守ります!



熊谷町長から表示証を受け取った久慈代表理事組合長(右)

表示証を手にする久慈代表理事組合長(中央左)と熊谷町長(中央右)。交付式に参加した岩手中央農業協同組合と3市町の消防団関係者

町と盛岡市、矢巾町は、岩手中央農業協同組合(久慈宗悦代表理事組合長)に対し、3市町合同で「消防団協力事業所表示制度」に基づく表示証を交付しました。この表示証は、消防団員の雇用や活動に積極的に協力している事業所に対して交付するもの。また、事業所の社会貢献を広く広報するとともに、町民や他の事業所からの理解を深め、地域の防災体制が一層充実したものになることを目的としています。同組合には3市町合わせて63人の消防団員が勤務し、昼夜問わず災害現場に駆けつけるなど、事業所の協力のもと消防団活動に励んでいます。熊谷町長は「農協職員の皆さんには、地域と密接に関わる仕事をしながら消防団活動に尽力いただいています。今後表示証の交付を受ける事業所が増えることを祈念します」と話し、同組合の久慈代表理事組合長は「表示証をいただいたことを契機として、今後さらに職員の防災意識の高揚や消防団員の確保に取り組んでいきます」とさらなる防災体制の強化を誓いました。

3 / 2~4

趣のあるひな人形がずらり 紫波のひなまつり



歴史あるひな人形を楽しむ家族

国指定重要文化財「平井家住宅」をメイン会場に、日詰商店街で紫波のひなまつりが行われました。平井家住宅には、享保雛をはじめ、花巻人形やつるし雛など、町内外から集められた珍しいひな人形が数多く飾られ、一般に公開されました。また、初日はフラダンスや落語、2日目は歴史講談や藤原翼さんによる津軽三味線の演奏、3日目は琴の演奏などのイベントも開催。訪れた人たちは平井家住宅の趣のあるレトロな雰囲気とともに、催しを楽しみました。日詰地区から訪れた人は「ひな人形を出す人たちの苦労もあると思いますが、昔の美しいひな人形を見ることができて良かったです」と話していました。

2 / 16

未来を担う中学生が オーストラリアに出発



それぞれの目標を胸に出発した10人の生徒たち

中学生国際交流海外派遣事業でオーストラリアを訪問する2年生10人と引率者2人は、役場議場前で熊谷町長と侘美教育長に出発を報告しました。保護者や学校関係者が見守る中、「ホームシックや嫌いな食べ物に負けず、オーストラリアと日本の架け橋になれるように頑張ってください」と意欲を見せた紫波第一中学校の西村結衣さん。生徒たちは2月16日から24日までの日程で、姉妹都市のクイーンズランド州サザンダウズ市を訪問。3月8日には情報交流館で報告会を開き、現地の学校やホームステイ先などで得た学びや思いなどを発表しました。